

指導資料



鹿児島県総合教育センター

技術・家庭 第34号

— 中学校対象 —

平成18年5月発行

学んだ技術を生活に生かす技術・家庭科の学習指導の工夫 — 問題解決的な学習指導の工夫を通して —

技術・家庭科では、単なる作品製作や実習で終わらせるのではなく、科学技術の進展への対応や生活と技術のかかわりを理解する視点に、生活の自立を図る視点を加味して、効果的な学習を展開する必要がある。

そこで、本稿では技術・家庭科で学んだことを生活に生かすことができる生徒を育成する学習指導の工夫について、指導計画の作成と問題解決的な学習の在り方を中心に述べる。

1 指導計画の工夫

各学校では、3学年間を通していずれかの分野に偏ることなく標準の授業時数を配当し、各分野の各項目に配当する授業時数や履修学年については、実態に応じて適切に定めることになっている。

そこで、指導計画を作成するに当たっては、生徒の実態はもちろん、学校の教育目標や学校内外の環境などを考慮して、次のような点に配慮する必要がある。

(1) 目標の明確化

各分野において、目標を具体的にとらえ、題材の内容や構成、配列等が生徒の生活に密着したものであるか十分に検討

し、どの学年で、どのような能力を身に付けさせるのかを明確にする。

(2) 連携の工夫

技術分野と家庭分野の連携を図ることができる題材を工夫し、題材の中で他教科との関連をどのように図るかを明らかにする。

これらを踏まえ、各分野の各項目に示す事項が、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるような両分野の連携を組み入れた指導計画の例（図1参照）を示す。

技術分野 (17時間)		家庭分野 (18時間)	
A 技術とものづくり		B 家族と家庭生活	
(5) エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作		(1) 自分の成長と家族	
① 力を伝達するしくみ	6	① 幼児期を振り返る	1
② 動くおもちゃの設計	3	(2) 幼児の発達と家族	
・幼児のおもちゃ		① 幼児と遊び	6
③ 動くおもちゃの製作	7	・いろいろな遊び	
○ 発表とまとめ	1	・遊びと発達	
		② 幼児の心身の発達と生活習慣の形成	5
		・心身の発達の特徴	
		・基本的な生活習慣の形成	
		③ 幼児の発達と家族	2
		(5) 幼児の生活と触れ合い	
		① 幼児と楽しく遊ぼう	3
		○ 学習のまとめ	1

図1 連携した指導計画の例

これは、家庭分野で学習した「幼児の生活に役立つものをつくることができる」の学習を終えた後、実際のおもちゃの製作を、技術分野の「動くおもちゃの製作」の学習の中で行わせる指導計画である。この計画では、家庭分野で自分自身のこれまでの成長が家族や地域の人々によって支えられてきたことを理解し、家族をはじめ周りの人とよりよい関係を保つことができる能力や資質を育てる観点で学習を進める。併せて、技術分野の学習では幼児の成長にあった動くおもちゃを設計・製作する学習を通して、これからの社会で主体的に生きていこうとする力の育成を図るものである。このほかにも、技術分野で栽培した作物を、家庭分野で調理するなどの連携についても実践報告があるが、いずれにしても、身に付けさせたい能力を明らかにしておく必要がある。

なお、題材については目標を達成するために適したものであり、生徒の工夫することができる要素が入ったもので、地域や学校の実態を考慮したものが必要である。

2 問題解決的な学習指導の充実

生徒の家庭生活や社会生活は急激な変化の中にあり、将来にわたって変化し続ける生活に適応していくためには、生徒一人一

人が社会の変化に主体的に対応できる能力をもつことが必要である。

主体的に対応できる能力として、課題に対して様々な角度から考えるなどの思考力、思考を統合して解決方法を決定するなどの判断力、判断した結果を的確に創造的に示すことができる表現力といった力などが挙げられる。これらの能力の育成には、生徒自らが物事に疑問をもって課題を発見したり、意欲をもって追究し、解決のための方法を探ったりするなどの学習が重要であり、この学習を繰り返し行うことによって、身近な課題に対応することができる問題解決の能力として定着していく。そのためにも、生活に密接に結び付いた内容を取り上げることで、実践的・体験的な学習を積み重ね、生活に生かそうとする態度にまで高めていかなければならない。

そこで、次のような視点から問題解決的な学習の充実を図ることが大切である。

(1) 問題解決的な学習の指導過程

生徒が、主体的に課題を解決していくためには、事象提示によって課題意識を喚起させるだけでなく、課題意識が生活への生かし方を考える段階まで持続できる指導過程の工夫が大切である。図2は、その基本的な指導過程である。

導入		展開			終末			
事象提示	→	学習課題設定	→	課題解決方法の検討	→	課題解決の取組	→	まとめと評価
・ 教師演示や実験など様々な事象から、学習したい内容を発見し、自らの力で学習課題を設定する。		・ 生徒が既習の経験や教科書、資料等を活用し、課題を解決するための方法を考える。 ・ 実習や実験、観察、見学、調査、ロールプレイングなど、実践的・体験的な学習活動を通して確かめる。			・ 課題を解決することができたかを振り返り、自己評価する。 ・ 生活への生かし方を考える。			

図2 一単位時間の問題解決的な学習の指導過程